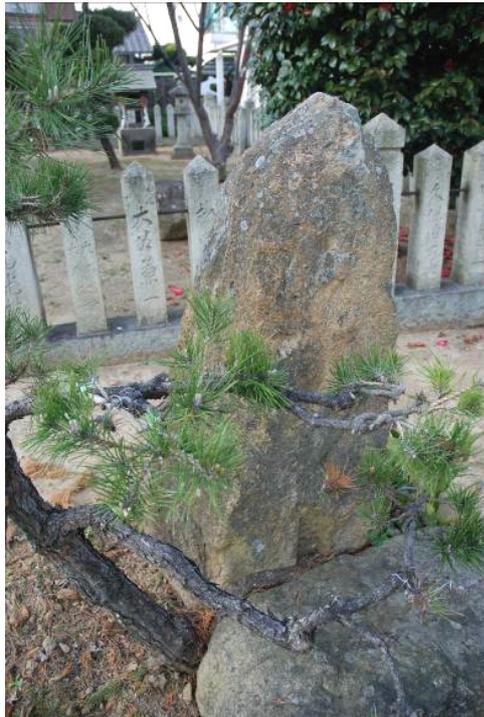


## 「賀古駅家、発掘ものがたり」 17 <お昼ご飯と大発見！>



<下の方に縦方向の細長い穴が見える>

発掘調査を行っていた平成21年の3月、いつものように賀古駅家があった場所に建てられた大歳神社で、お弁当を広げていました。この大歳神社には賀古駅家に使われていた礎石（柱をのせる台石）がたくさん集められています。境内に置かれたり、石碑の基礎に使われたり、私が数えたところ22個ありました。

お弁当を食べながら、ボケ～と眺めていると、その中でひときわ大きな石に目が留まったのです。その石は地面に少し埋めて立てられており「礎石にしては大きいなあ。駅家と関係のない石が運ばれてきたのかなあ」なんて思いながらお弁当を食べていました。梅干しをかじったその時、ふと頭に思い浮かぶものがありました。それは上郡町野磨駅家の発掘調査現場で見た、門の主柱を支える石製の「唐居敷（からいじき）」でした。

当時、私は野磨駅家の発掘現場に築地塀（ついじべい：駅家を囲む塀）の断面をはぎ取る指導に行っていたのですが、その時に発掘調査で見つかった大きな石製の唐居敷を目にしました。石材の大きさも驚きなのですが、それ以上に印象的だったのは石の上面には長細い長方形の穴と、正方形の穴が並んで掘られていたことです。発掘調査担当者にお聞きすると、それは「方立穴（ほうだてあな）」と「軸摺穴（じくすりあな）」と呼ばれるもので、「方立板（ほうだたいた）」という板と、扉の「軸」をはめ込むための穴だと教えていただきました。

その時に見た唐居敷が、お弁当箱の向こう側に立っているように思えたのです。

唐居敷かどうか、確認する方法は簡単です。長方形の方立穴と正方形の軸摺穴を探せ

ばいいのです。早速、地面に立てられたその大きな石を観察しましたが、そんな穴はどこにも見あたりません。「ちえっ」と思いながらもあきらめきれず、「ひょっとしたら・・・」と思い直し、石をなで回すように見まわすと、地面に埋まったところに、長方形の穴の端が覗いているではありませんか！この細長い感じは方立穴のようです。

しかし、全体の様子がわからないので、はっきりしたことは言えません。もし、唐居敷ならビッグニュースです。新聞に載るのも夢ではありません。それ以上に播磨の駅家研究が大きく前進します。

次の日、境内にもう一つ大きな石が立てられていたので、こちらもじっくり観察しますと、やはり長方形の穴の一部が地面の上から覗いていました！！左右一対の唐居敷もう間違いありません。よくぞ残っていてくれました。あとは、地面の下の部分を調査し、正方形の穴とセットになっているのを確認するだけです。

しかし、「ちょっと覗くだけ」とはいつでも、地面を掘削することには変わりありません。神社境内ということもあり、地元の了解を得なければなりませんし、文化財保護法による届出など、クリアすべき手続きが必要です。

あわてない、あわてない。冷静に着実に。発掘調査と並行して唐居敷の調査も行うことにしました。

兵庫県立考古博物館 学芸員 中村 弘